

50歳未満組合員アンケート結果から見える若手の実態

建設産業では他産業よりも高齢化が進んでおり、組合員の高齢化も進んでいます。こうした変化の中で、組合運動の担い手確保と処遇改善に向けて、50歳未満の組合員を対象に、業務利用や取り組みへの参加、働き方の実態などを把握するためのアンケートを実施しました。調査の案内は訪問、DMによって行ない、回答はインターネットでお願いしました。2021年8月～12月の調査期間の中で労働者2797人、事業主528人、計3325人に回答いただきました。その一部を紹介します。

有給5日取得は労働者の32%

労働者の特徴

主な丁場先は町場が51.5%と半数を占め、次いで野丁場、新丁場となっています(表1)。東京土建国保、厚生年金に加入(適用除外)している労働者は、全体の64%となっています(表2)。

有給休暇5日以上の取得状況は、労働者全体で32.1%

状況は、労働者全体で32.1%にとどまり(表3)、月の休日も4週5休・4週4休の回答が約5割、平均労働時間も9時間以上とする回答が4割近くありました。休みが少なく、長時間労働であることがわかります。さらに、建設業の現状を踏まえ何を改善すべきかの問いでは、賃金の引き上げが一番多く、次いで休日を増やす、働くルールの確立を望む声が多いことも明らかになりました。(その他の特徴点は表4参照)

事業主の特徴

事業主としての経験年数は、10年未満と回答した事業主が67%、内5年未満と回答した事業主が38.4%と経験の若い事業主が多く、従業員の人数でも5人未満の事業所の割合が多くなっています。健康

一位は健診、次いで宿泊補助

○組合の利用状況、活動等への参加状況
事業主・労働者とも共通して組合制度の利用が多いのは、土建国保の業務で、健康診断、宿泊利用者補助、次いでインフルエンザ予防接種となつています。一方、どげん共済会の制度利用が少なく、50歳未満の仲間に向けて、どげん共済会の周知・制度学習の必要性を示しています。(表6参照)

「改善の取り組み、嬉しく思う」

○労働者からの意見
新卒で働き始めた20代前半の仲間からは、「他の業界と比較するとフラクかな面があるが、改善に向けた取り組みがあることを嬉しく思う」という組合への期待や、感謝や励みなどの言葉も多く寄せられました。一方で組合費・保険料の引き下げや支払い方法などの意見も多くありました。「仕事で困っている」については、仕事量や人手不足、求人不足、求人について意見が多く、生活で困っているという声も聞かれました。

○事業主からの意見
「賃金形態は月固定給(月給)が5割を超えています。書面による契約締結、就業規則、36協定の締結、有給休暇5日間の取得など、いずれの課題でも労働者・事業主ともに他の丁場に比べると働き方改革への対応が遅れをとっています。建設キャリアアップ

健康診断・人間ドックが71.4%で最多。その他、ディズニーリゾート割引、宿泊補助、予防接種、どげん共済などが20%台を超えている。「新丁場」、「野丁場」よりも「町場」からの参加者が多い。労働者の組合利用、取り組み参加状況は全体的に低い傾向にある。業務については一定の利用割合がみられる一方で、組合の取り組みに対する参加割合が低い傾向にある。「資格取得講習会」は8.1%と一定の需要があるとみられる。

表1/ 主な仕事先

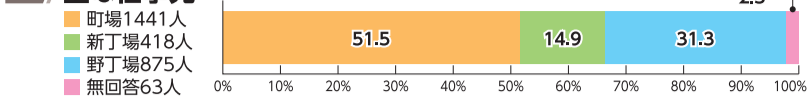


表2/ 土建国保・厚生年金加入

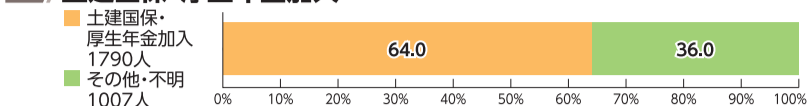


表3/ 有給休暇の取得

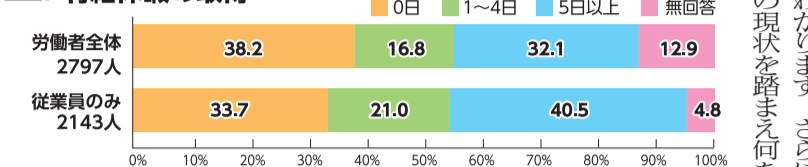


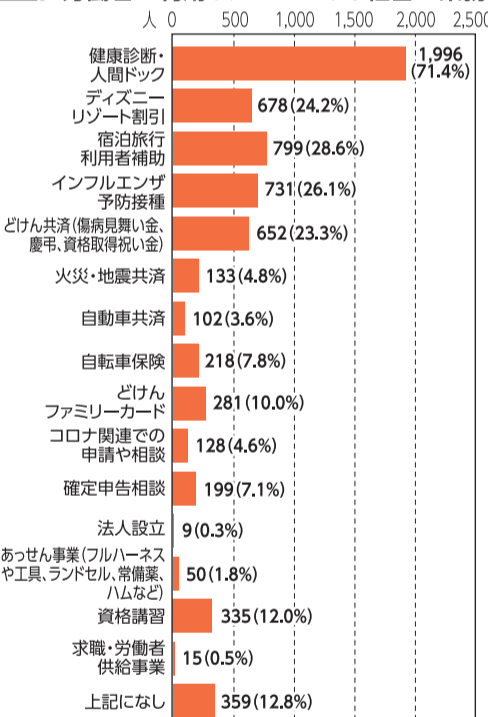
表4/ 基礎集計からの労働者の特徴

Table with 2 columns: Feature (Age, Working Style, Industry, etc.) and Value (e.g., Average age 37.6, 40% in 40s).

表5/ 基礎集計からの事業主の特徴

Table with 2 columns: Feature (Age, Business Form, Sales, etc.) and Value (e.g., Average age 41.8, 68.9% in 40s).

表6/ 労働者が利用したことのある組合の業務



注: グラフ上の比率は全回答者(2,797人)に対する比率。(複数回答可)

健康診断・人間ドックが71.4%で最多。その他、ディズニーリゾート割引、宿泊補助、予防接種、どげん共済などが20%台を超えている。「新丁場」、「野丁場」よりも「町場」からの参加者が多い。労働者の組合利用、取り組み参加状況は全体的に低い傾向にある。業務については一定の利用割合がみられる一方で、組合の取り組みに対する参加割合が低い傾向にある。「資格取得講習会」は8.1%と一定の需要があるとみられる。

従業員組合員の結集がカギ

健保適用除外制度を利用する事業主の参加したことのある組合の取り組みは、「支部のレクや交流会」29.4%、「土建まつり」22%、「住宅デー」20.6%と比較的高い傾向にあります。(表10参照)
労働者の場合は、「住宅デー」は、「レクイベント」で1割弱にとどまり参加が少ないことが分かります。これまでの訪問対話や正確な実務対応で信頼

表7/ 退職金制度

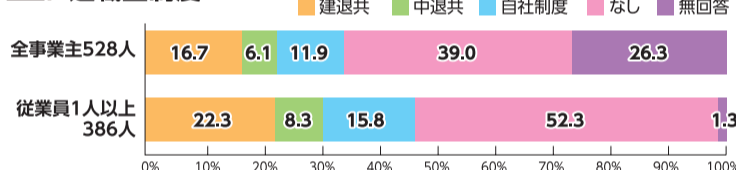


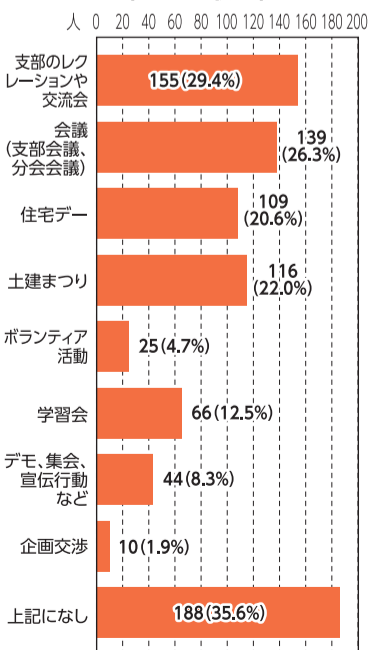
表8/ 組合利用、活動参加の特徴(労働者)

- 健康診断・人間ドックが71.4%で最多。その他、ディズニーリゾート割引、宿泊補助、予防接種、どげん共済などが20%台を超えている
- 「新丁場」、「野丁場」よりも「町場」からの参加者が多い
- 労働者の組合利用、取り組み参加状況は全体的に低い傾向にある
- 業務については一定の利用割合がみられる一方で、組合の取り組みに対する参加割合が低い傾向にある
- 「資格取得講習会」は8.1%と一定の需要があるとみられる

表9/ 組合利用、活動参加の特徴(事業主)

- 土建国保・厚生年金の手続き、労災保険・雇用保険等の手続きなどの利用割合は7割以上である
- 「町場」、「野丁場」は、建退共や建設業許可、コロナ関連の申請などの利用割合が「新丁場」よりも多い
- 「町場」は確定申告相談が他の仕事先よりも多い
- 全体的に労働者よりも取り組みへの参加割合が高い
- 「資格取得講習会」は約半数が参加を希望している
- 「町場」の事業主は、交流会等への参加要望が他の仕事先よりも高い

表10/ 事業主が参加したことのある組合の取り組み



注: グラフ上の比率は、全回答者(528人)に対する比率。(複数回答可)